



卓話

故中井清造会員を偲ぶひととき

安田幹事の挨拶

故中井清造会員は、大正3年9月18日生まれで、平成16年12月31日に91歳で亡くなりました。

当RC入会は、昭和60年8月1日、趣味は社交ダンスで、藤原会員などと盛んにやられていました。

故中井会員を偲びながら、黙祷をしたいと思います。



小畑会員の挨拶

故中井会員に献杯。

故中井会員の当RC在籍は、約19年になりますが、万年SAAといえますか、いつも11時過ぎには例会場に入られ、受付のところで皆さんを迎えておられました。その姿を思い出します。

故中井会員は、お子さまがいらっしゃらないので、奥様との2人で生活でしたが、夜になると、淋しいためか、受付のところから「来いよ。来いよ」と声を掛けられ、いまから16年前頃から毎週1回、時々落合会員の力を借りながら、お邪魔をしていました。

中井さんの商売の話、宝石の話、骨董の話、社交ダンスのことなど、いろいろの話をされていました。故中井会員の兵隊時代の上官だった故松本会員と、その部下の兵士だった故伊東会員が存命のときは、何かなさっていたらしいんですが、お二人が亡くなったときから、話し相手が亡くなりました。それから普段の夜は、1週間に1回お邪魔して戦争の話などを聴きながら過ごしたことが思い出

となっています。

平成16年8月20日にお邪魔したとき、「親戚や身内のものに看取られながら死にたいなあ」という話がたまたま出ました。その2日後の



22日にけがをされました。帰宅中、自宅のエレベータのところで転ばれて頭を打たれたんです。

幸い、回復しましたが、故中井会員には、誰かが側にいて、万一のときは見送って上げたほうがいいのではないかと、昨年12月31日まで130日間ずっとお見舞いに行きました。

最後の日の2日前に、米山会長が徹夜で付き添っていただき、31日の明け方に亡くなりましたけれども、親戚の人や身内などに看取られて亡くなったのですから、いいじゃないかと私は思っています。

故中井会員は、生前家庭葬のような静かなのにしたいと話されていましたが、結局、会員の皆さんに盛大に送られて、本人は幸せだったのではないかと感じています。

故中井会員が亡くなって以来、奥様のところに藤原会員と1週間に一度お邪魔していますが、中井さんに連れられて週四回は病院に行っていた奥様は、いまでは医者にはかかる必要のないほど元気になっておられます。故中井会員も、安心しておられると思います。

米山会長の挨拶

私は、年齢は違ったものの、故中井会員と同じ入会日で同期生です。奥様とよく食事をしました。故中井会員も、おそらくこうして皆様が偲んでくれたことに、彼岸で感謝しているのではないかと思います。

